

藤田 俊裕さん (山口県下関市出身)  
2016年度1次隊 シニア海外ボランティア  
派遣国：ペルー 職種：自動車整備  
2017年11月26日(日) 中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

## 地元料理食べ 町の一員

南米ペルーの北部にあるピウラ市、その職業訓練学校の自動車整備コースが私の配属先だ。

この町では新参者に必ずと言っていいほど「ピウラのセビーチェは食べたかい」と、質問がとぶ。「まだだ」と答えると、間髪を入れずに「ピウラのセビーチェはペルーで一番おいしい」「リマのそれとは比べものにならないぞ」と返ってくる。セビーチェとは、魚介を小ぶりで青いレモンの酢でしめてアヒーと呼ばれる唐辛子をきかせ、野菜や豆と一緒に食べるペルー人皆が好きな料理だ。

そんなセビーチェが一番おいしく食べられるのが、ここピウラであると信じて疑わない。そのおいしさに納得、絶賛してようやくこの町の一員になれるのだ。太陽の輝くこの町の人々は陽気だ。これでもかというほどよく食べ、しゃべり、大声で歌い笑う。それを見ていると私まで楽しくなる。

最初は遠まきに私を観察していた配属先の生徒たちも、先生の目を盗んでは「私を助けてください、これはどうすればいいの」と積極的に質問に来るようにもなった。

サッカー談議にも花が咲く。この時ばかりは得意げな顔でペルーと日本が試合をしたら5-0でペルーの勝ちだと目を輝かす。私の抗議で渋々、じゃあ5-1だなと譲ってくれる。

今夜も遠くから重低音の音楽が聞こえる。またどこかで、セビーチェを囲み、にぎやかなパーティーが始まっているのだ。こうして夜が更ける。



初めて分解したエンジンの中で、ポーズを取る生徒たち。  
実習の際の彼らはとても真剣だ